



【ばか苗病対策を徹底し、優良種子安定生産にご協力を】

ばか苗病の発生が増加しています。ばか苗病胞子は容易に拡散することが知られており、感染株から500m程度までのほ場は感染リスクがあるとされています。以下の点に留意し、「ばか苗病」の発生防止にご協力願います。特に、ほ場の周辺に種子場がある場合には、優良種子生産のため「ばか苗病」を発生させないよう、なお一層のご注意をお願いします(下図参照)。

- 1 種子更新は必ず毎年行う。
- 2 薬剤消毒済みの種子を使用し塩水選を行う。未消毒種子を購入、自家採種した場合は、必ず塩水選と種子消毒を行う(下表参照)。
- 3 育苗期間に「ばか苗病」に感染した苗は必ず抜き取り、本田に持ち込まない。

○未消毒種子の防除手順

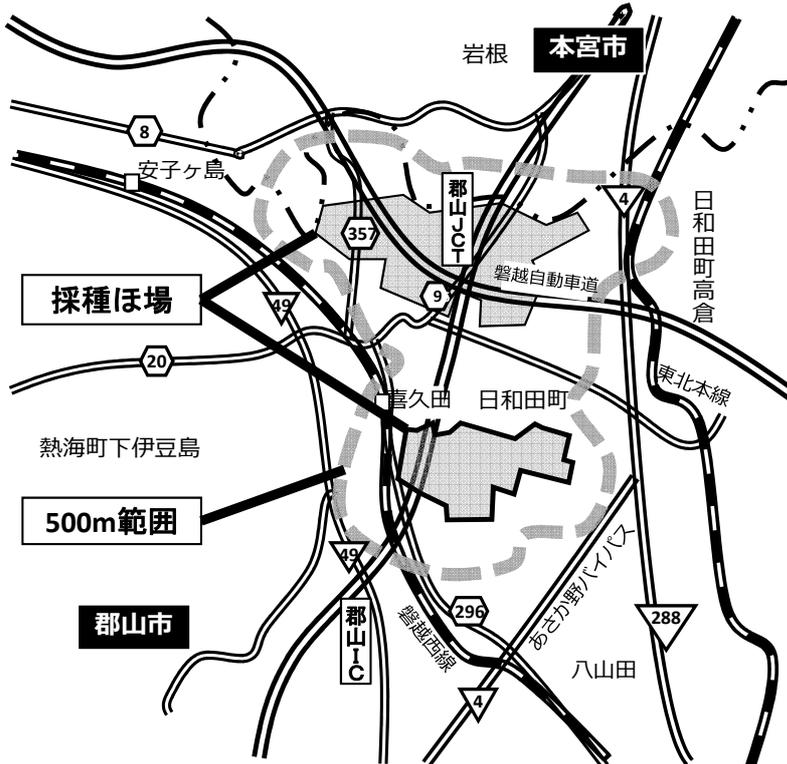
塩水選 → 水洗後水切り → 低濃度浸漬消毒 → 浸種 → 催芽 → 播種

○ばか苗病の防除方法例

防除方法	使用薬剤	使用方法	
低濃度浸漬消毒	テクリードCフロアブル モミガードC水和剤	200倍液に24時間浸漬	浸漬後は水洗いせずに直ちに浸種する。

県内各地でイネばか苗病のプロクロラズ剤(商品名:スポルタック乳剤、スポルタックスターナSE)への耐性菌が確認されているので、種子消毒には別の剤を使用しましょう。

郡山市内の水稻種子場設置箇所



【安全な米生産のために】

～土壌カリ含量維持につとめましょう～

令和4年産米の放射性物質検査は、旧市町村ごとに3点のモニタリング検査を実施し、県全域で検出下限値以下でした。

今後も安全な米づくりを行うため、放射性物質の吸収を抑制するため、水田のカリ含量(目標25mg/100g乾土)を維持するように管理しましょう。

令和4年産米収穫後の土壌調査において、目標値以下となっている水田土壌が散見されました。カリ含量が低下しやすい砂質土壌やわら持ち出し水田はもちろんのこと、土壌の状況に応じてカリの追加散布を行いましょう。

【カリ含量維持に有効な対策】

- 1 収穫後、すみやかに稲わらをすき込む。
- 2 稲わらを持ち出している場合、堆肥またはカリ肥料で補う。
- 3 定期的に土壌診断を行い、不足する交換性カリ含量は堆肥や土壌改良資材、基肥の上乗せ施肥で対応する。

